



**2023年3月期 第3四半期決算説明**  
(2022年4月1日～2022年12月31日)

株式会社スクロール  
証券コード：8005（東証プライム）

- 1. 2023年3月期 第3四半期決算概要** P. 2
- 2. 今後の見通し** P.13
- 3. 中期経営計画・ESGへの取組み** P.17
- 4. 会社概要・事業セグメントご紹介** P.24

# 2023年3月期 第3四半期決算概要

---

## ハイライト【連結】

- 売上高及び経常利益は、第3四半期において前年同期を上回ったものの、累計期間では減収減益。

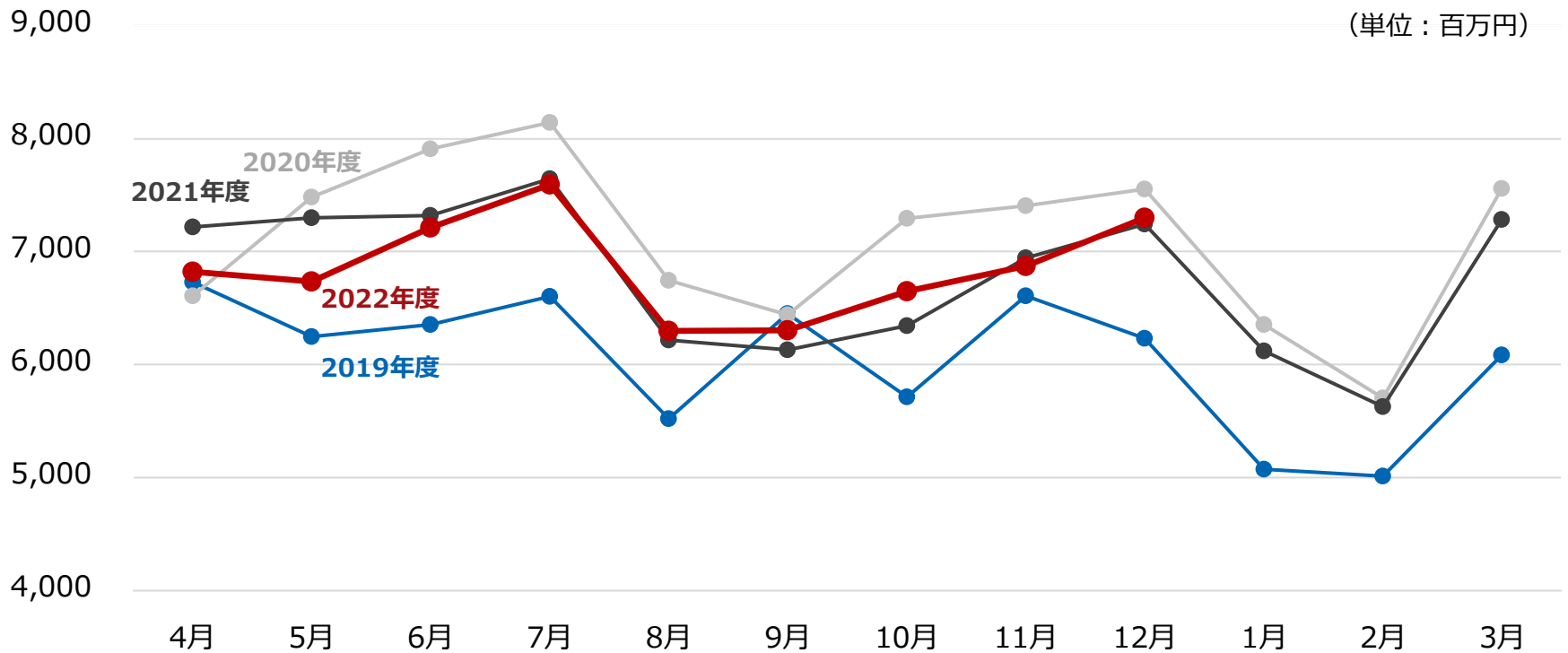
(単位：百万円)

	2022年3月期 第3四半期 実績	2023年3月期 第3四半期 実績	増減額 対 前期実績	増減率 対 前期実績
売上高	62,359	61,786	△573	△0.9%
営業利益 (営業利益率)	6,462 (10.4%)	5,224 (8.5%)	△1,237	△19.2%
経常利益 (経常利益率)	6,510 (10.4%)	5,187 (8.4%)	△1,322	△20.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,462	3,558	△903	△20.3%
1株当たり四半期純利益	127.98円	101.91円	△26.07円	—

※ △は損失または減少を表します。以下、すべてのページにおいて同様に表記します。

# 月次売上高の推移【連結】

- 主にソリューション事業の伸長により、8月以降はほぼ毎月、前期実績を上回って推移している。

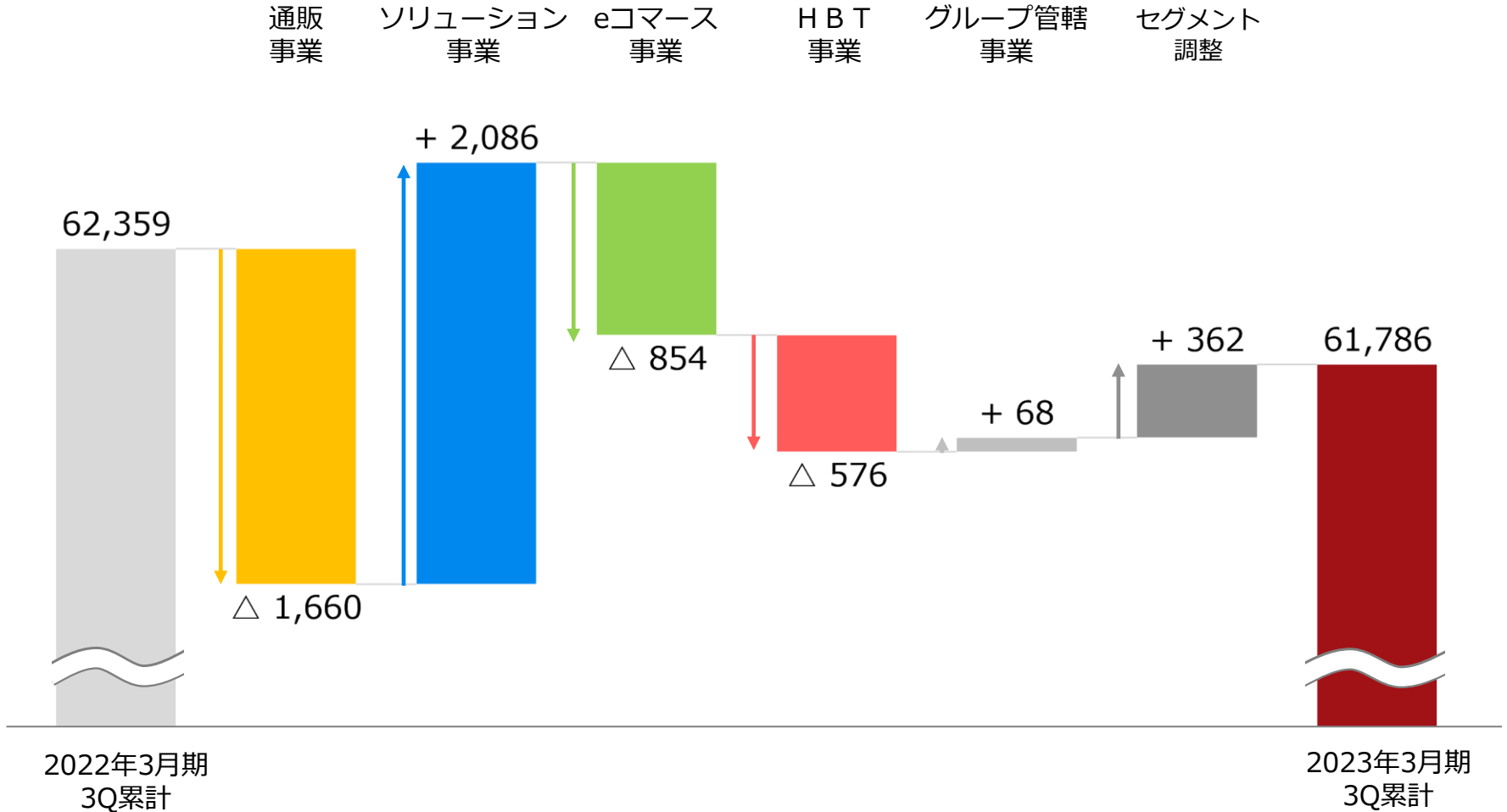


※2019年度及び2020年度数値は、「収益認識に関する会計基準」等適用前の参考値にて表示しております。

# 売上高の増減分析【連結】

- 通販事業は、期首の低調の影響が大きく、累計で減収。
- ソリューション事業は、新規物流センターの寄与や各種サービスの伸長により、累計で増収。

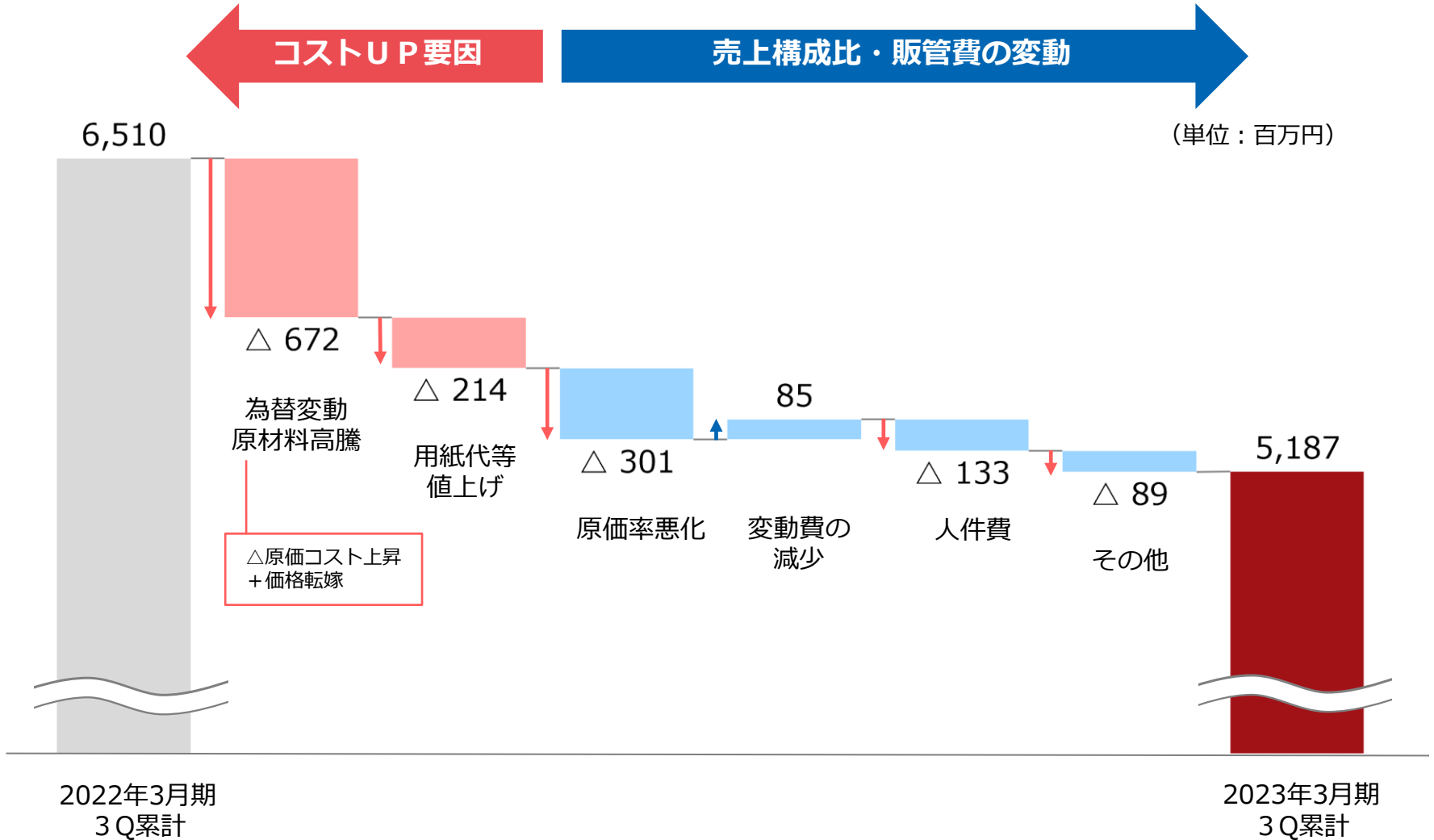
(単位：百万円)



※ 2023年3月期の期首より、報告セグメントの変更を行っております。

# 経常利益の増減分析【連結】

- 期首からの円安影響に加え、下期以降の用紙代等の値上げ影響により減益。



## 販売費及び一般管理費の推移【連結】

- 広告宣伝費及びその他経費の増加により、販管費及び一般管理費率が1.2 P 増加。

(単位：百万円)

	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	増減額	増減要因（概数）
運賃諸掛	1,225	1,180	△45	
広告宣伝費	7,721	7,891	+169	[-] 販促費△85百万円（週展開カタログ配布の効率化） [+] 販促費+126百万円（冊子カタログの増部）
人件費	3,526	3,659	+133	[+] 賞与関連+90百万円（前期要因:基準変更）
その他経費	4,813	5,121	+308	[+] 支払手数料+302百万円（科目変更:原価振替） [-] 貸倒引当金繰入△29百万円（決済代行）
販売費及び一般管理費 （販売費及び一般管理費率）	17,287 (27.7%)	17,852 (28.9%)	+565 (+1.2P)	[+] うちコストUP 要因+214百万円



## セグメント別業績

## 通販事業

## 減収減益 減収減益ながら夏以降の売上は回復

売上高：	31,406百万円	(△ 5.0%)
セグメント利益：	4,790百万円	(△16.3%)

## ソリューション事業

## 増収増益 物流代行をはじめ各種サービスが伸長

売上高：	15,755百万円	(+15.3%)
セグメント利益：	536百万円	(+85.7%)

## eコマース事業

## 減収減益 市場環境は依然として厳しく苦戦

売上高：	15,319百万円	(△ 5.3%)
セグメント利益：	△173百万円	(前年同期は313百万円)

## HBT事業

## 減収減益 事業再編に伴い減収減益

売上高：	1,089百万円	(△34.6%)
セグメント利益：	△125百万円	(前年同期は52百万円)

## グループ管轄事業

## 増収減益 不動産事業における水道光熱費上昇の負担増

売上高：	2,581百万円	(+ 2.7%)
セグメント利益：	114百万円	(△26.0%)

※ ( )内は前年同期比

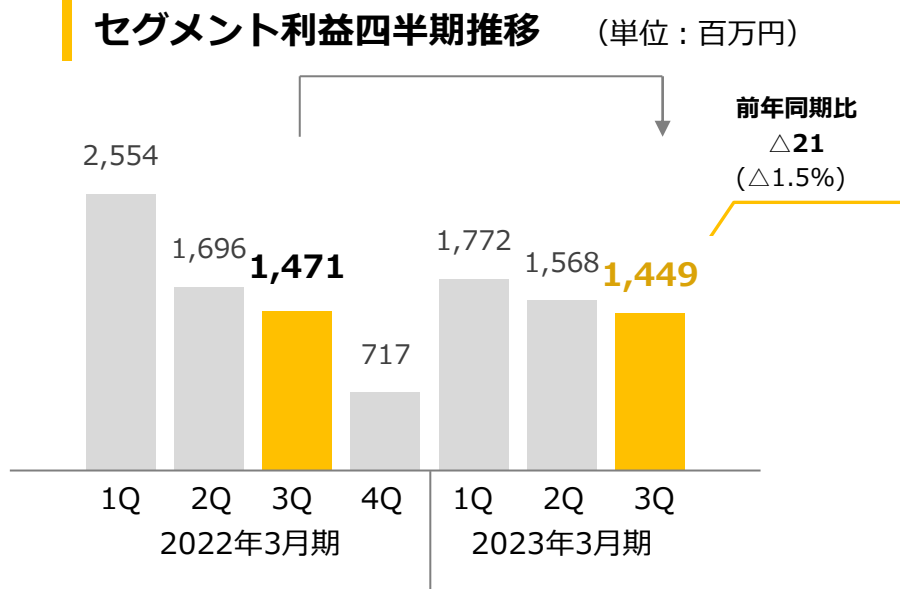
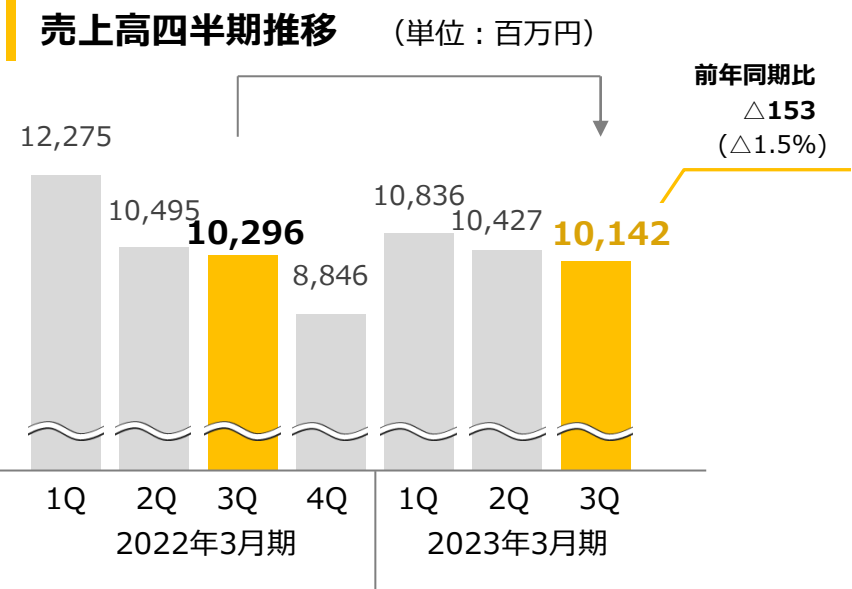
※ 2023年3月期の期首より、報告セグメントの変更を行っております。

※連結調整額は含んでおりません。

# 通販事業セグメント

- 第3四半期は前期と同等の売上となるが、累計期間では減収減益。
  - 売上高は、第2四半期以降は回復し堅調に推移。
  - 原材料価格等の上昇を受け、第3四半期からコストUPの一部を価格転嫁。

<b>累計期間</b>	売上高：	31,406百万円	(前年同期比 $\Delta$ 5.0%)
	セグメント利益：	4,790百万円	(前年同期比 $\Delta$ 16.3%)



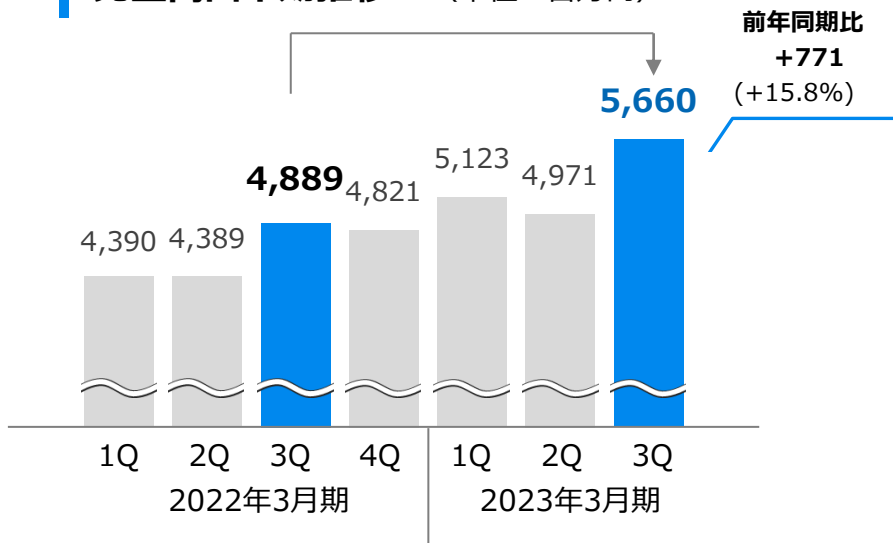
# ソリューション事業セグメント

- 物流代行をはじめとする通販ソリューション各種サービスが伸長し、増収増益。
  - ・ 第3四半期は、四半期期間として過去最高の売上高実績となる。
  - ・ 決済代行サービスが好調に推移し、利益面で寄与。

<b>累計期間</b>	売上高：	15,755百万円	(前年同期比 +15.3%)
	セグメント利益：	536百万円	(前年同期比 +85.7%)

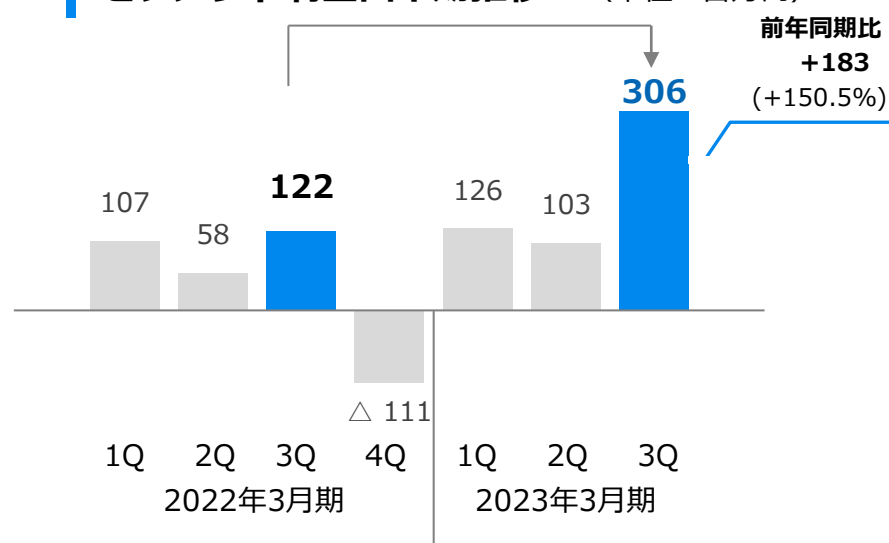
## 売上高四半期推移

(単位：百万円)



## セグメント利益四半期推移

(単位：百万円)



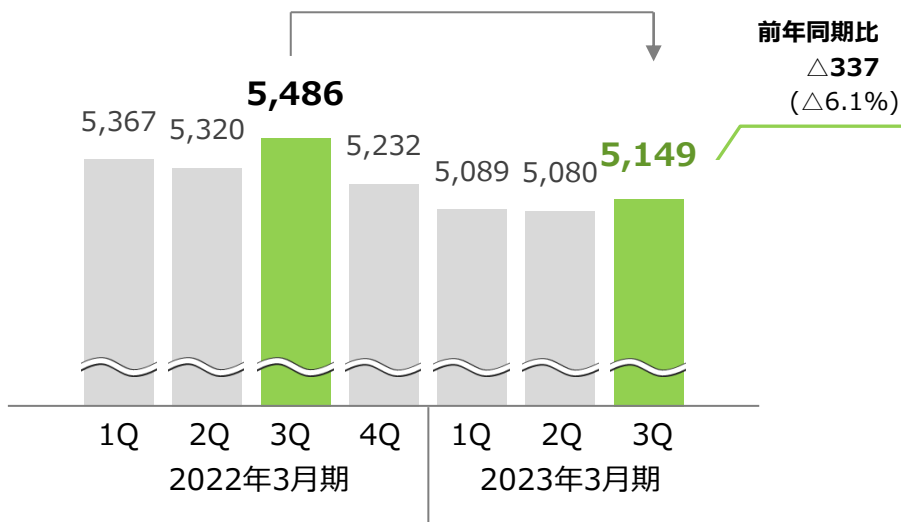
# eコマース事業セグメント

- 市場環境が厳しさを増し苦戦。
  - ・オリジナル商品の開発や新ビジネスモデルの提供など、差別化戦略を推進。
  - ・価格競争の激化や仕入価格の上昇により採算悪化。

<b>累計期間</b>	売上高：	15,319百万円	(前年同期比 △ 5.3%)
	セグメント利益：	△173百万円	(前年同期は 313百万円)

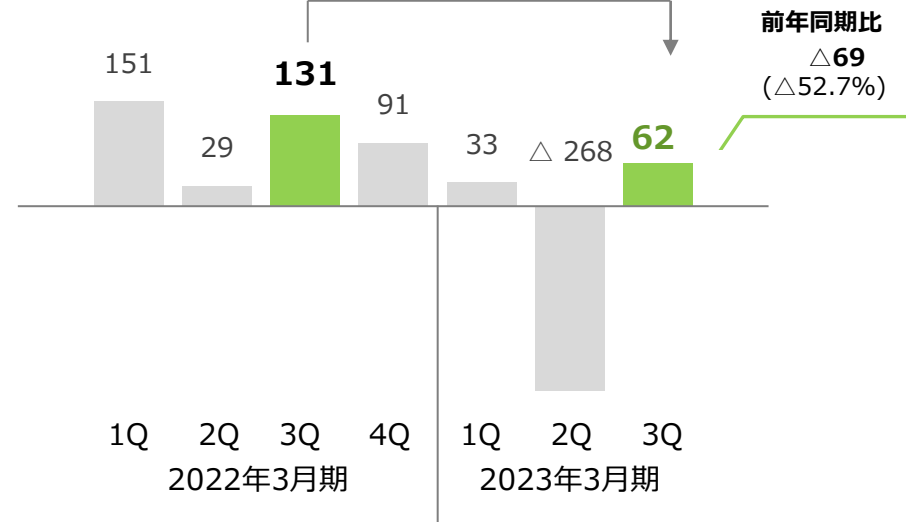
## 売上高四半期推移

(単位：百万円)



## セグメント利益四半期推移

(単位：百万円)



## 貸借対照表の推移【連結】

- 純資産は、四半期純利益の計上、資本金の増加により、31,401百万円となる。

(単位：百万円)

	2022年3月期末	2023年3月期 第3四半期末	増減額	<主な増減項目>	
流動資産	32,233	34,917	+2,684	現金及び預金	△1,460
				売掛金	+2,389
				棚卸資産	+2,047
固定資産	17,477	17,325	△152		
資産合計	49,711	52,243	+2,532		
流動負債	12,051	16,151	+4,100	短期借入金	+2,925
固定負債	7,621	4,689	△2,932	長期借入金	△3,000
負債合計	19,673	20,841	+1,167		
純資産合計	30,037	31,401	+1,364	資本金・資本剰余金	+90
				配当金支払	△2,249
				四半期純利益	+3,558
負債純資産合計	49,711	52,243	+2,532		
自己資本比率	60.4%	60.1%	△0.3P		

# 今後の見通し

---

## 2023年3月期 通期業績予想【連結】

- 第3四半期までの実績を踏まえ、今後の事業環境を加味したうえで予想数値を下記のとおり修正いたしました。

(単位：百万円)

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期業績予想		増減額 下段：(増減率)/[率差]	
		前回発表 (10月28日発表)	今回発表 (1月31日発表)	対 前期実績	対 前回発表
		売上高	81,391	79,000	80,000
営業利益 (営業利益率)	7,000 (8.6%)	4,500 (5.7%)	5,500 (6.9%)	△1,500 [△1.7P]	+1,000 [+1.2P]
経常利益 (経常利益率)	7,096 (8.7%)	4,500 (5.7%)	5,500 (6.9%)	△1,596 [△1.8P]	+1,000 [+1.2P]
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,585	3,100	3,800	△1,785	+700
ROE (自己資本当期純利益率)	19.7%	10.1%	12.3%	△7.4P	+2.2P

## 2023年3月期 通期業績予想【セグメント別】

- セグメント別では、下記のとおり、通販事業、eコマース事業の業績予想数値を修正いたしました。

(単位：百万円)

	2022年3月期		2023年3月期業績予想				増減				
	実績	増減率 (利益率)	前回発表 (10月28日発表)		今回発表 (1月31日発表)		対 前期実績		対 前回発表		
			予想値	増減率 (利益率)	予想値	増減率 (利益率)	差額	率 [率差]	差額	率 [率差]	
売上高	通販事業	41,914	—	38,000	△9.3%	39,500	△5.8%	△2,414	△5.8%	+1,500	+3.9%
	ソリューション事業	18,490	—	20,800	+12.5%	20,800	+12.5%	+2,309	+12.5%	—	—
	eコマース事業	21,406	—	20,500	△4.2%	20,000	△6.6%	△1,406	△6.6%	△500	△2.4%
	HBT事業	2,510	—	1,700	△32.3%	1,700	△32.3%	△810	△32.3%	—	—
	グループ管轄事業	3,287	—	3,100	△5.7%	3,100	△5.7%	△187	△5.7%	—	—
	連結調整	△6,217	—	△5,100	—	△5,100	—	+1,117	—	—	—
計	81,391	—	79,000	△2.9%	80,000	△1.7%	△1,391	△1.7%	+1,000	+1.3%	
セグメント利益	通販事業	6,439	(15.4%)	3,900	(10.3%)	4,900	(12.4%)	△1,539	[△3.0P]	+1,000	[+2.1P]
	ソリューション事業	177	(1.0%)	600	(2.9%)	600	(2.9%)	+422	[+1.9P]	—	—
	eコマース事業	404	(1.9%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	△404	[△1.9P]	—	—
	HBT事業	△1	(△0.1%)	△100	(△5.9%)	△100	(△5.9%)	△98	[△5.8P]	—	—
	グループ管轄事業	111	(3.4%)	100	(3.2%)	100	(3.2%)	△11	[△0.2P]	—	—
	連結調整	△35	—	0	—	0	—	+35	—	—	—
計 (経常利益)	7,096	(8.7%)	4,500	(5.7%)	5,500	(6.9%)	△1,596	[△1.8P]	+1,000	[+1.2P]	

※ 2022年3月期については、「収益認識に関する会計基準」等の適用初年度となるため、対前期増減率は記載しておりません。



# 株主還元について

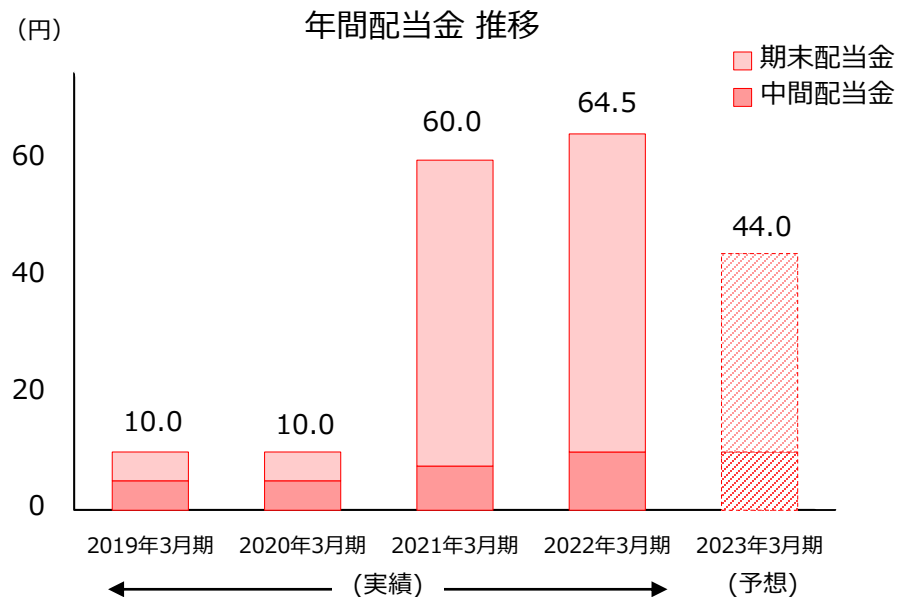
## ■基本方針

- ・ 当社は、株主の皆様への利益還元を、経営の最重要政策のひとつとして位置づけております。
- ・ 配当方針については、年間配当金20円を下限とし、連結配当性向40%を基本として実施してまいります。  
 なお、事業活動に直接の関わりのない不動産や有価証券の売却、及びその他の特殊要因により当期利益が大きく変動する事業年度については、その影響額を除外し、配当額を決定いたします。
- ・ 内部留保金は、企業間競争力の維持・強化を図るための、適切な投資などに活用してまいります。

## ■2023年3月期の1株当たりの配当金（予想）

2023年3月期の配当予想につきましては、前述の業績予想の修正に伴い、期末配当金の予想額を34.0円に、年間配当金の予想額を44.0円に、それぞれ修正いたします。

中間配当金	10.0円
期末配当金	34.0円（予想）
年間配当金	44.0円（予想）



# 中期経営計画・ESGへの取組み

---

# Next Evolution 2024 ~To the Next Goal~

## DMC複合通販企業の変容と進化

2022年度

2023-2024年度

二大重点方針

### 第二次DMC複合通販経営の推進

#### 通販事業一本足経営からの脱却

- ・ 通販事業セグメントにおけるS V Bの売上拡大
- ・ ソリューション事業セグメントの収益拡大
- ・ eコマース事業セグメントの収益率向上

目標

DMCの第二次完成に向けた事業ポートフォリオの最適化

### Responsibility経営の取組み強化

#### 事業利益に貢献する取組み推進

- ・ 環境配慮、脱炭素社会への取組み（E/環境）
- ・ タスク・ダイバーシティ経営の推進（S/社会）
- ・ コーポレート・ガバナンスの拡充（G/ガバナンス）

環境・社会目標達成に向けた取組みの推進

## ESGへの取組み

当社グループは、「社会から信頼される企業であること。」という社是のもと、人々の豊かな暮らしづくりをサポートしていきます。



### ・環境配慮、脱炭素社会への取組み

- ✓ 事業を通じた環境負荷低減への取組み →詳しくはP.20で解説  
(紙・プラスチック素材の使用量削減、SDGs関連商品の拡充)
- ✓ CO<sub>2</sub>排出量の削減



### ・タスク・ダイバーシティ経営の推進

- ✓ はままつフラワーパークとの取組み
- ✓ 女性の活躍推進 →詳しくはP.21で解説  
(女性管理職目標比率の設定、管理職候補者向けの研修実施や制度の改善など)



### ・コーポレート・ガバナンスの拡充

- ✓ コーポレート・ガバナンスシステムの変更 →詳しくはP.22で解説
- ✓ 譲渡制限付株式報酬制度の導入

## 事業活動を通じた環境負荷低減の取組み

### プラスチック素材の使用量削減

#### 目標

2030年度までに  
プラスチック素材の使用量65%削除  
(2021年度対比)

### 紙の使用量削減

#### 目標

2030年度までにカタログ等に使用する  
紙の使用量25%削減  
(2021年度対比)

### SDGs関連商品の拡充

#### 目標

2025年度までに  
SDGs関連商品の構成比50%  
(アパレル商材)

### プラスチック素材の使用量削減

プラスチック素材の使用量削減のため、商品梱包袋や、お客様へ商品をお届けする際に使用している袋の紙・バイオマス素材への切替えを進めています。



紙袋には、適切に管理された森林の木材を使用して作られたFSC認証紙を使用しています。



バイオマス素材への切替えだけでなく、袋の厚みを薄くすることで、さらなるプラスチック使用量削減に取り組んでいます。

### SDGs関連商品の拡充

地球の限りある資源を大切に使い、より良い状態で未来へつなぐため、SDGs関連商品の拡充を推進しています。



当社では、3つの軸とその領域を設定し、それに当てはまるものを「SDGs関連商品」としています。



①環境配慮素材が30%以上使用されている製品



②日本の技術と伝統が活用された日本製製品



③寄付やチャリティ活動につながるもの、また健康商材など、健康や福祉の観点で社会貢献に寄与できる製品

## 女性の活躍推進

### 女性管理職の登用

#### 目標

2024年度までに

グループ全体の女性管理職比率25%以上（スクロール単体で20%以上）

### 社内研修の実施

- ・ **タスク・ダイバーシティ研修（マネジメント層向け）**  
部下の成長を促す上司側の支援体制の整備を目的とした研修を実施しています。
- ・ **女性管理職候補者研修**  
次世代、次々世代候補者の育成に着手し、女性管理職候補者の継続的な輩出を目指しています。



研修の様子

### はままつフラワーパーク園長 塚本こなみさん社内講演会

「スクロール環境アンバサダー」を委嘱している、はままつフラワーパーク園長の塚本こなみさんによる社内向け講演会「感動をお渡しするために」を開催しました。

日本初の女性樹木医であり、「はままつフラワーパーク」の再建を手掛けた経営者でもある塚本さんのご経験を基に、園を訪れる人々を感動させる施設づくりの理念や、リピーターを続々と生み出す「感動分岐点経営」という独自の考えについてご講演いただきました。



講演会の様子

## コーポレート・ガバナンスシステムの変更

### サステナビリティ委員会の設置

2022年10月28日付で、代表取締役社長を委員長とした「サステナビリティ委員会」を設置いたしました。当委員会では、当社が策定した以下のマテリアリティ（重要課題）に対する活動のモニタリングや評価を行います。



より良い商品・サービスの開発を通して、豊かな暮らしづくりをサポートする



少子高齢化社会によって起こる社会問題の解決



環境負荷の低減



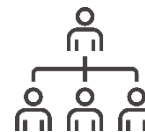
SCM強化による安心安全な商品提供



タスク・ダイバーシティ経営の推進



地域社会への貢献



コーポレート・ガバナンスの強化

当社は、マテリアリティへの取組み、ESG経営を推進することで、ステークホルダーからの要請に応えてまいります。



2023年1月、スクロールグループのキービジュアルをリニューアルしました。



## テーマ：「通販のプロ集団」

スクロールグループ最大の特徴であり強みは、DMC複合通販企業であることです。

お客様の「今日を、いい日に。」を実現するため、通販のあらゆる分野のプロフェッショナルが集結し、たくさんのアイデアを詰め込んでいる様子表現しています。



# 会社概要・事業セグメントご紹介

---

今日を、いい日に。



## 株式会社スクロール (Scroll Corporation)

- 本 社 : 静岡県浜松市中区佐藤二丁目24番1号
- 代表取締役社長 : 鶴見 知久
- 設 立 : 1943年 (昭和18年) 10月1日
- 資本金 : 6,064百万円 (2022年12月31日現在)
- 従業員 (連結) : 891名 (2022年12月31日現在)
- 主な事業内容 : アパレル、雑貨、化粧品・健康食品・旅行等のEC・通販事業  
及びEC・通販事業者へのソリューション事業
- 事業形態 : 連結19社によるDMC複合通販企業体

# 事業セグメント及び事業概要

## 通販事業

主に生協宅配事業の組合員様向けに通信販売（カタログ・一部インターネット）を展開しています。



詩克樂商貿（上海）  
有限公司

## ソリューション 事業

EC・通販事業者を360度サポートする「ワンストップソリューションサービス」を提供しています。



株式会社キャッチボール



## eコマース事業

主に自社サイトやショッピングモールを通じて、専門特化した商品カテゴリーのインターネット販売を行っています。

A X E S



株式会社ミヨシ

## H B T 事業

お客様が心身ともに健康であるために、自然派・オーガニックにこだわった化粧品・健康食品のインターネット販売、また国内旅行企画の販売を行っています。



Anthropologie  
北海道アンソロロジー株式会社

木 草  
果 花



株式会社トラベックス ツアーズ

## グループ管轄 事業

全国各拠点の物流センター運営、不動産の有効活用、また海外現地法人による商品生産管理などの機能を担っています。



SCROLL VIETNAM  
CO.,LTD.

## お問合せ窓口

The logo for Scroll Corporation, featuring the word "scroll" in a bold, lowercase, sans-serif font. To the right of the text is a vertical red bar that is slightly taller than the text, with a thin vertical line extending from the top of the bar down to the bottom of the text.

経営統括部 経営企画課

TEL : 053-464-1114 (直通)

FAX : 053-464-1309

E-mail : ir@mb.scroll.jp

ホームページアドレス

<https://www.scroll.jp/>

### ■ 将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。